

令和6年能登半島地震  
日本介護支援専門員協会ケアマネボランティアに参加して感じたこと

1. 活動期間

令和6年2月5日(月)～2月10日(土)

2. 活動場所

2/5、6、7、10 いしかわ総合スポーツセンター（1.5 避難所→その後2次避難所）  
2/8、9 輪島市

3. 活動内容

1. いしかわ総合スポーツセンターでの入院や施設入所のマッチング支援



令和6年(2024年)能登半島地震による  
避難所の開設について

令和6年(2024年)能登半島地震の長引く被災状況として、いしかわ総合スポーツセンターが避難所となることになり、利用開始いたしました。  
この際の被害状況を鑑み、奥面メインアリーナ、サブアリーナ、マルチパーパス、公衆電話の設置はできません。  
ご迷惑をおかけする場合がございます。  
※、トレーニングルーム、シューズについては避難前より利用いただけます。

【ご利用できない施設】

メインアリーナ、サブアリーナ  
マルチパーパス、会議室

避難所として(シラシラ、スモーク、入浴など)利用できません。  
※、奥面メインアリーナ、サブアリーナ、マルチパーパス、公衆電話はご利用できません。

いしかわ総合スポーツセンター (ISC)

いしかわ総合スポーツセンターの避難者の状況

- メインアリーナ…一般の避難者で年齢も様々。ほとんど自立されているが中には要支援、要介護の方が散見される
- サブ…医療行為は基本必要としないが日常生活の介護が必要な方が多く、いわゆる「特養」と説明受ける。
- マルチ…医療行為がある程度必要な方「老健」と説明受ける。

全体で180名位前後の入所者

このうち、主にサブとマルチに入所している方々を県内、及び県外の施設や病院に移っていただくためのマッチングの支援。

マッチング方法…入所者の基本的な状況(病気、家族構成、介護程度等)が県庁の支援チームに送られており、それをもとに県庁チームが各施設等に電話連絡して引き受けてくる施設をあたる(県庁チームは地元の石川、富山、福井のケアマネボランティアが担当)。

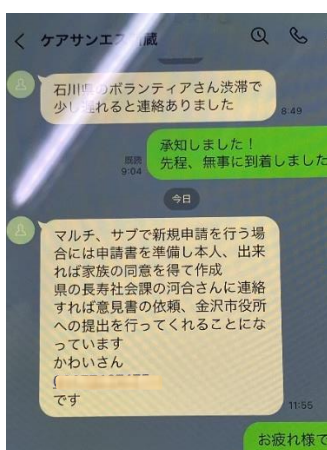
スポーツセンターでの具体的な活動

- ・受け入れ施設が決まると、書類を作成し DMAT に連絡する。
- ・受け入れ施設からの問い合わせ(認知症の程度、薬の使い方、ADL 等)について現場の看護師や介護士に確認しそれを伝える。
- ・新しい入所者が入ると事前に来ている状況と変化がないか簡単な聞き取りを行う。
- ・施設内の移動は頻回なため、1日3回(10時、13時、15時)サブとマルチをラウンドし入室状況を確認し、夕方に一覧表を作成し DMAT に提出。
- ・介護保険申請に関する援助
- ・その他もろもろの相談が寄せられ対応



＜スポーツセンター裏手にある日本協会のブース＞マッチングの作業中

＜入所・退所の予定表＞



＜介護申請に関するラインの連絡＞

＜スポーツセンター全体の避難者の入室状況＞

・コーディネーターの役割

- ① ケアマネボランティアの役割分担
- ② 日本協会等との連絡調整
- ③ 宿泊者の確認と部屋割り
- ④ 活動報告書の提出(毎日)
- ⑤ パソコン、物品、現金等の管理
- ⑥ その他諸々

2. 輪島市で避難所の状況把握活動

輪島市内の避難所及び在宅で避難生活を送っている要援護者を把握し、必要な支援につなげるため「被災高齢者等把握事業」をスタートするための先見的な状況把握。避難所や福祉避難所を訪問し、環境や避難生活の状況を見せていただき、必要に応じて避難所の支援者等から情報を聞き取る。

施設名	所在地	連絡先	開設日
1 輪島市立第一中学校	12 西条公民館	080-5266-9992	
2 輪島市立第二中学校	24 西条公民館	080-5273-9133	
3 輪島市立第三中学校	25 西条公民館	080-5262-9434	
4 輪島市立第四中学校	21 西条公民館	080-5265-9355	
5 輪島市立第五中学校	21 西条公民館	080-5265-9355	
6 輪島市立第六中学校	21 西条公民館	080-5265-9355	
7 輪島市立第七中学校	21 西条公民館	080-5265-9355	
8 輪島市立第八中学校	21 西条公民館	080-5265-9355	
9 輪島市立第九中学校	21 西条公民館	080-5265-9355	
10 輪島市立第十中学校	21 西条公民館	080-5265-9355	
11 輪島市立第十一中学校	21 西条公民館	080-5265-9355	
12 輪島市立第十二中学校	21 西条公民館	080-5265-9355	
13 輪島市立第十三中学校	21 西条公民館	080-5265-9355	
14 輪島市立第十四中学校	21 西条公民館	080-5265-9355	
15 輪島市立第十五中学校	21 西条公民館	080-5265-9355	
16 輪島市立第十六中学校	21 西条公民館	080-5265-9355	
17 輪島市立第十七中学校	21 西条公民館	080-5265-9355	
18 輪島市立第十八中学校	21 西条公民館	080-5265-9355	

施設名	所在地	法人	開設日	2月8日
1 輪島市立第一中学校	空田町25-4-10	(社) 弘和会	1月1日	13
2 輪島市立第二中学校	湯原町1-30-4	(社) 弘和会	1月1日	32
3 輪島市立第三中学校	二ツ巻町2-28	(社) 弘和会	1月1日	24
4 輪島市立第四中学校	門前町下下25	輪島の家(株)	1月1日	19
5 輪島市立第五中学校	門前町下下22-42	(社) 白守会	1月1日	3
6 輪島市立第六中学校	七尾市津向町107-4	(社) 徳光会	1月10日	3
7 輪島市立第七中学校	水守町豊後14番地	(社) 東野福祉会	1月10日	6
8 輪島市立第八中学校	門前町赤井10-1	(社) 門前町福祉会	1月1日	6
9 輪島市立第九中学校	石川町中野原01(1)3-17-1-1	(有) COM	1月23日	17
10 輪島市立第十中学校	気持町1-23	(社) 東福祉会	2月6日	6

<輪島市の避難所・福祉避難所の一覧>



<ご協力いただいた特養「あての木園」>

あての木園の入所者は全員避難中、デイサービス等も中止し現在は休止中。輪島市内の特養4つの内機能できているのは一か所のみで、二つの特養は廃業の噂もあるとのこと。ケアマネボランティアは土地勘がないため、単独で行動することは無理なの

で、地元のケアマネジャーさん等の協力が不可欠。

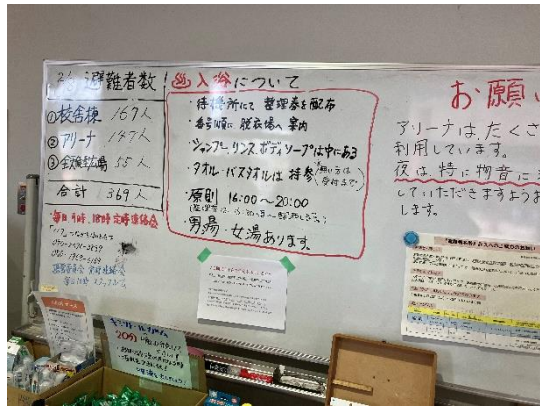
2/8(木)…2 か所の避難所を見学 比較的小規模(30 名程度) 輪島市内から 20～30 分程度かかる地区 地域でのつながりが強い印象



2/9(金)…輪島市役所を訪問し障害福祉課、地域包括支援センターの方と情報交換。



<輪島市役所>



<輪島中学校避難所>

輪島市内最大の避難所 370人ほどが避難している。石川県のサイトで調べてみると収容可能人数は279人となっているので100人ほどオーバーしている。



<自衛隊の入浴支援>



<駐車場は地盤沈下し大きな段差がある>

<輪島市内の状況>



輪島市内の家屋や道路の被害はすさまじく、見る限りほとんどの家が赤または黄色の応急判定の紙が貼られている。余震などで家や壁が崩れる危険性を感じる。道路の損傷もひどく、一部を修復して片側が辛うじて通行できるようになっている箇所が多い。道路全体が波打っている箇所も多く、いたるところに段差があるため、低速で慎重に通行する必要がある。



<行方不明者の捜索が続けられている地区>

<参加した感想>

いしかわ総合スポーツセンターでのマッチングの支援は、ケアマネボランティアとしてはやや意外な、施設ケアマネの仕事に近い活動だったと感じた。当初は相当な混乱がありマッチング作業は多忙だったと想像されるが、自分が参加した段階ではかなり落ち着いており、それぞれの職種も役割の変化を求められる時期だったと感じる。入所者は介護認定を持つ方ばかりではないが、要介護者の場合は2次避難所へのマッチングを担当ケアマネジャーの代わりに行っていた面があり、地元のケアマネジャーの支援になっていた可能性がある。

輪島市での避難所の状況把握は急な展開で情報も少なく、戸惑いながらの活動になった。輪島までの行程も厳しく、断水状態のため活動が制限され、十分な状況把握ができたとは言えない。輪島市や途中の穴水市、七尾市は被害が顕著で、倒壊した家屋がそのままの状態であり、その数の多さに驚いた。道路の損傷の激しさも印象に残った。自動車専用道路も凹凸が多く高速走行は危険。また一部崩壊している道路も多く、慎重な運転が求められた。

輪島市では休止している特養の職員の方の案内で避難所を回ることができた。土地勘だけでなく、施設の名前を出すと避難所の見学をスムーズに受け入れていただいた。外部からの支援が入る場合地元の方の協力は不可欠だと感じた。

今回、日本介護支援専門員協会が募集したケアマネボランティアで、初めてコーディネーターを担当したことで、現場で活動するだけでなく、裏で支える様々な仕事が必要なのだと痛感した。コーディネーターは現地のケアマネボランティアを取りまとめるだけでなく、日本協会や他の支援団体との連携調整など重要な役割を求められる。自分の能力を超えた部分もあり、周囲の方に迷惑をかけてしまい申し訳ないと感じる。日本介護支援専門員協会の立場、石川県協会の立ち位置など微妙な関係性も感じられ、災害支援の難しさを改めて痛感した。

石川県では輪島市や珠洲市などで以前断水が続いている。発災から1か月半以上もライフラインが復旧しない異常な状態で、現地を見ると、被災のフェーズがやっと2か

ら3に移行しつつあるという印象をもつ。被災地の方は苦しい生活を強いられており、支援する方々も自身が被災しながら懸命のケアを続けて、疲労がたまってきていると想像する。

今後も能登半島へは相当長期間の支援が必要と思われ、私たちにどんな支援ができるのかを考え続けていかなければならない。それと同時に、今自分たちの周りで同じような災害が起きたらと想定し、それに備えることを怠ってはならない。

自宅に戻り感じたのは暖かい食事とお風呂、清潔な寝床のありがたさだった。そしてお手洗いの心配がないこと。普通の生活が送れることの幸せをかみしめている。

令和6年2月18日

ケアプランセンター千代田 林隆夫